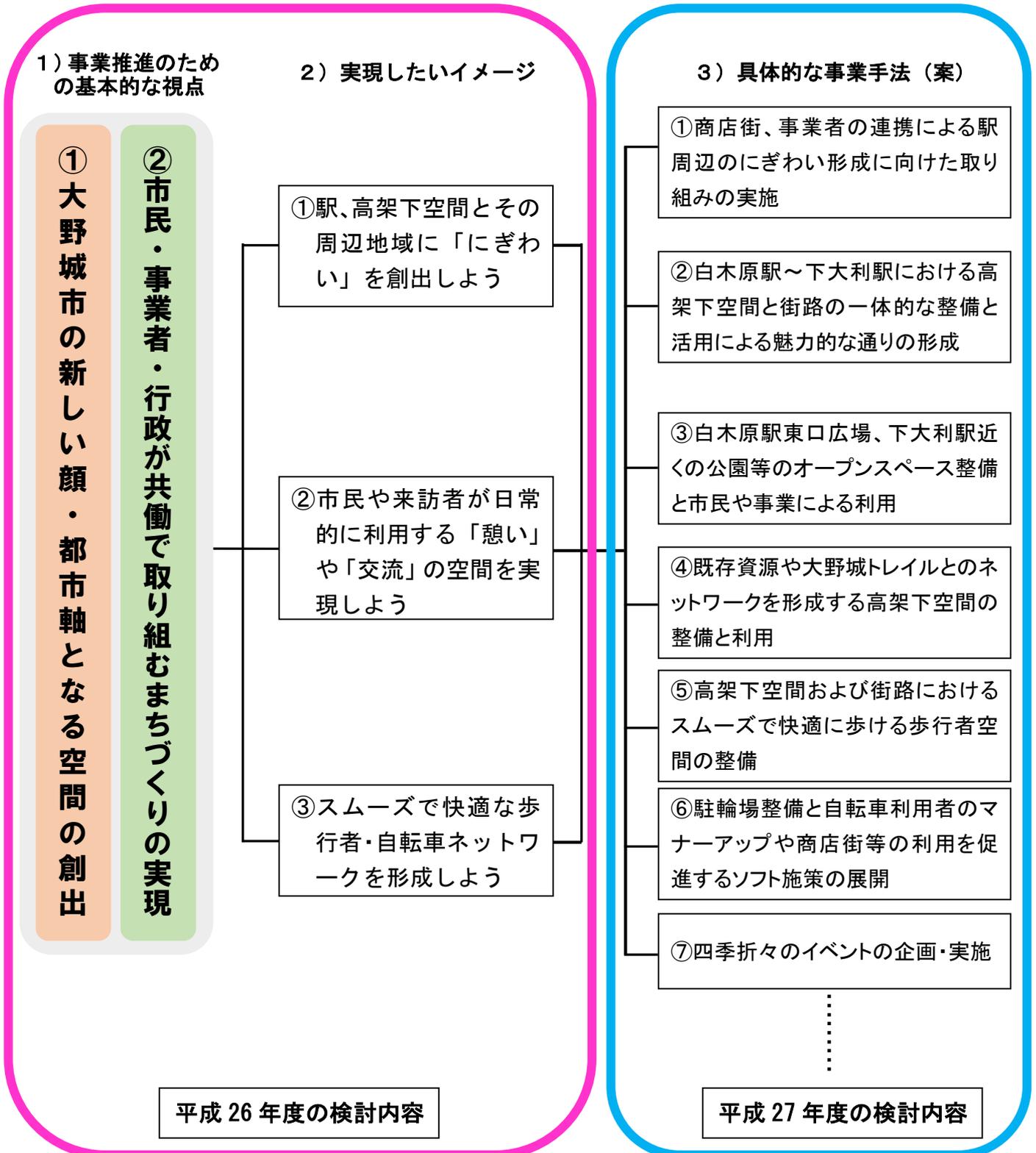


(1) 基本方針の検討

しみん会議やデザイン会議などの検討組織で出された意見や大野城市の上位・関連計画を踏まえ、高架下を活用したまちづくりの基本的な方針を以下のように決めました。

■計画の体系図



1) 事業推進のための基本的な視点

①大野城市の新しい顔・都市軸となる空間の創出

大野城市の新しい顔づくりとも言える本事業を進めていく上では、側道部を含めた高架下空間を、従来のような画一的な空間とするのではなく、利活用と景観形成という点に配慮した、質の高いデザインを目指していきます。

- ・訪れる目的があり、様々なニーズの来訪者を受け入れる等、多様な場면을展開する空間
- ・日常生活と密接に関わりを持ち続けていく空間
- ・積極的な緑化を図り、潤いのある緑の空間

②市民・事業者・行政が共働で取り組むまちづくりの実現

事業が完了し新しい高架下空間に生まれ変わった後も、その活用や維持管理に市民や地元商店街、さらには関係する事業者が積極的に参画できる枠組みを構築し、関係者が行政と共働で取り組む新しいまちづくりの継続的な発展を目指していくものとします。

- ・主役は来訪者と大野城市民
- ・高架下で繋がる隣接自治体（春日市や福岡市）や関係事業者（西鉄をはじめとする事業者や地元商店街）との連携

2) 実現したいイメージ

① 駅、高架下空間とその周辺地域に「にぎわい」を創出しよう

世代や性別、時間帯といった様々な条件による多様なニーズへの対応を図るとともに、主要なエリアについては明確なテーマを設定することで、利用者への求心力を高めていきます。

また、既存商店街や商業施設とのつながりを意識し、全体として補完し合いながら多様なニーズに対応し得る施設整備を図り、地域全体の活性化へと波及効果を広げてきます。

さらには、歴史資源や自然環境といった市内の地域資源をつなぐ「大野城トレイル」と連携し、歩くきっかけを提供しながら新たな人の動きを創りだしていくことを目指していきます。

② 市民や来訪者が日常的に利用する「憩い」や「交流」の空間を実現しよう

市民や利用者の「憩い」、「日常利用」、「交流」といった行動に対応する空間を高架下及びその周辺に整備することで、今ある地域活動の機能保持を図ると同時に、新しい交流、新しい地域活動の創出に寄与していきます。

③ スムーズで快適な歩行者・自転車ネットワークを形成しよう

高架下空間や側道における歩行者や自転車の新たな動きを、より利便性の高いものとし、安全に安心して移動できる空間を整備していきます。

(2) ゾーニングの検討

高架下及びその周辺について、メリハリのある空間活用を目指し、「にぎわいゾーン」や「憩いゾーン」などのゾーン分けなどのゾーニングを検討しました。

また、それぞれのゾーンに求める機能等を把握するため、整備完了後にどのような利用がなされるのか「子育て世代」、「高齢者」、「観光客」、「若者」の立場から検討を行いました。

①ゾーニング

・全体

高架下全体のゾーニングとして、「明るく、楽しく歩ける空間」、「南北の見通しが良く、分断されない空間」など、安全で安心して暮らせる生活環境の空間とする。

・緑色

このゾーンは、「落ちつきのある憩い空間」のゾーニングとしている。その中でも春日原駅から福岡市境の区間については、快適に歩ける歩行者空間の利用とする。

・黄色

幅員 25m が確保された道路があるこの区間については、「魅力的な通りの形成」をつくるイメージとなる。また、高架下の中に飲食店・物販店などがあり、そこを訪れた人たちが 25m 幅員道路を使って楽しみ、滞留し、にぎわいをつくる。また、特定の世代だけでなく、子ども、子育て世代そして中高年、シニア世代といった様々な世代がこのゾーンの中で交流し、楽しくなるストリートづくりを行う。

・赤色

この部分については、「それぞれの駅を中心としたにぎわいづくり」がイメージとなる。下大利駅では、目玉になるものを付加し、駅一体のにぎわいをつくる。白木原も駅を中心としてイベントなどを行い、にぎわいをつくる。春日原駅については、駅を中心としたところだけでなく、周辺の既存商店街やイオンなどの商業施設を含め面的に広いにぎわいづくりを行う。

・オレンジ色

春日原駅の両サイドにあるこのゾーンについては、駅の途中に、にぎわいの場所に隣接して、多世代（子どもから高齢者まで）で憩うことのできる空間とする。これは春日原駅に限らず白木原駅や下大利駅といった、事業空間の中に憩いの空間が適切に配置されることが望ましい。